

# 4-4

## おでかけデイサービス（逆デイ）の実施

逆デイサービスで「ケアの質の向上・認知症ケア」の実践を

自立支援

認知症ケア

社会福祉法人櫻灯会 特別養護老人ホーム日の出紫苑

サービス部 栗原 一訓

サービス部 梅村 泰子 給食課 鈴木崇久

東京都西多摩郡日の出町大久野231-1

営業部 清水 江理子

TEL：042-597-1941

E-mail：hinodeshien@outokai.or.jp

FAX：042-597-1949

URL:http://www.outokai.or.jp

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

特別養護老人ホーム日の出紫苑は都心から 1 時間圏にありながら豊かな自然に抱かれる日の出町に平成 8 年 4 月に開設いたしました。利用者様お一人お一人に『心あたたまる介護』の実践を目指して日々のサービスに努めております。

### 〈取り組んだ課題〉

集団的ケアの視点から個別ケアの視点へ

↓  
活動を通じて個々の能力を認識し可能性を引き出す

↓  
残存機能を施設での生活に活かす

### 〈具体的な取り組み〉

【利用者】認知症のある方を対象に 6 名の利用者を固定メンバーとして選定

【職員】2 名

【活動日・時間】毎週月曜日 10：00～15：30

【主な活動内容】

- ・ 日常生活的活動（話し合いにて昼食メニューの決定、食材の買出し、昼食作り、掃除など）
- ・ 団楽の時間（会話、カラオケ、お裁縫、テレビ鑑賞など）

【個人評価】半年クールでおでかけデイ担当者による個人評価を行い、フロア担当者を交えショートカンファレンスを開催し個人評価を行っている

【ハード面での工夫】

- ・ 馴染みある環境の提供（インテリアは昭和初期デザインの物を設置したり掘ごたつにするなど）
- ・ 歩行困難者や車椅子利用者にも活動できるよう室内に手すりやスロープを設置
- ・ 残存機能維持を考慮しあえて段差解消しない設計
- ・ 娯楽的活動も楽しめるようカラオケルームを設置

【ソフト面での工夫】

- ・ 『だんらん』での職員の役割りは黒子的な存在。利用者主体で活動を進める

### 〈活動の成果と評価〉

- ・ 職員が利用者へ付添う時間が長くなり利用者各自の個性や特徴を知る事ができた。職員にとって利用者とのコミュニケーションがいかに大切であるかを再認識でき今後の施設における援助にも繋がった。
- ・ 『おでかけデイ』に参加された利用者の中には、活動を通じて基本的な生活行為が蘇り、施設の生活においても自ら進んで台所仕事や掃除を行うようになった。
- ・ 『おでかけデイ』での利用者同士の会話においても施設内では聞けない会話があり、ごく当たり前の互助の関係を築く事ができた。
- ・ 施設での生活では意欲低下が見られる方も『おでかけデイ』のその場の雰囲気にもまれ活気が見られたり、積極的に行動するなどの一面が見られた。

### 〈今後の課題〉

- ・ 活動を通じて引き出した可能性を施設生活においても最大限に活かす事の出来る援助の検討
- ・ 地域交流促進の為ボランティアの導入
- ・ 活動日数を増やし、日常生活的な活動だけでなく、利用者個々を活かす場や娯楽の場としての活用も検討する